

1. 試験方法：以下のJIS法にて試験してください。

A法：機器分析

JIS G 1253、JIS G 1256

B法：化学分析(試験項目に対応する試験方法で試験を行って下さい。)

JIS G 1211-1, JIS G 1211-2, JIS G 1211-3, JIS G 1211-4, JIS G 1212, JIS G 1213, JIS G 1214, JIS G 1215-1, JIS G 1215-2, JIS G 1215-3, JIS G 1215-4, JIS G 1216, JIS G 1217, JIS G 1218, JIS G 1219, JIS G 1221, JIS G 1224, JIS G 1226, JIS G 1257-1, JIS G 1257-10-1, JIS G 1257-10-3, JIS G 1257-10-4, JIS G 1257-11-1, JIS G 1257-11-2, JIS G 1258-1, JIS G 1258-2, JIS G 1258-3

A + B法：元素によってA法とB法を使い分けて定量する方法。但し、同一元素について、2個の試料で方法を変える事を禁止します。

試験コード	品 種
MC-0A	炭素鋼・低合金鋼 A法
MC-0B	炭素鋼・低合金鋼 B法
MC-AB	炭素鋼・低合金鋼 A+B法

2. 試験項目：記入用紙に記載された元素を質量%で定量する。

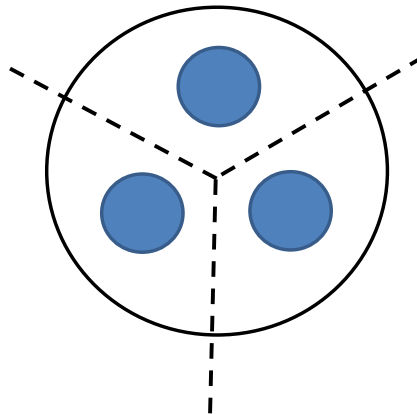
C, Si, Mn, P, S, Cu, Ni, Cr, Al, Mo

(合計 10元素)

3. 試 料：ブロック試料が2個同封されます。

A法の場合は、エッジより直径の4分の1中に入った点で、下図のようにほぼ均等に分割した位置を分析してください。

B法の場合は、これに相当する位置から測定用試料を加工の上、定量してください。



【注意】

試料の平均的な含有率を求めることが目的であるため、上図3点間で若干のばらつきがあっても、そのまま報告してください。ばらつきを小さくするために、特定の部位のみに集中して分析するのは、技能試験の趣旨に添いませんので、ご注意ください。

4. 結果の報告

(1) 3個の定量値を報告してください(合計値の報告は必要ありません)。

1 定量値は1測定値とし、2測定以上の平均値等を用いてはならない。

報告桁数は、下記による。但し、これは目安であり、貴試験所の測定不確かさにより有効数字が異なる場合は変更してもよい。

定量値<0.1質量%の場合 : 小数点以下4桁
0.1質量% ≤ 定量値 ≤ 10質量%の場合 : 小数点以下3桁
10質量% < 定量値の場合 : 小数点以下2桁

- ・使用した定量方法・規格名を報告してください。
- ・測定の不確かさ(k=2)を記入して下さい。
- ・A法又はB法及び両試験法の測定結果は、該当する試験方法のシートに入力して下さい。
- ・A + B法の測定結果は、それぞれの測定元素毎に該当する試験方法のシートに入力してください。
- ・貴所では通常定量しない元素又は評価を希望しない元素については報告の必要はありません。

(2) 試験結果報告用紙(データシート)のエクセルファイルは、下記URLからダウンロードし、測定結果を記入の上、E-mailでお送りください。

ファイル名には()内に試験番号を追記願います。

URL : <https://www.kmtl.co.jp/ja/archives/3277>

→ 第4回「金属の化学分析試験」 → 15項の関連文書 → 試験結果報告書用紙

(3) 結果報告データシートはオレンジ色のシャドーを施した欄に記入下さい。

(4) 平均値は計算のままにして、桁数を省略しないで下さい。

(5) 適用JIS規格については、定量方法の区分まで記載をお願いします。

(6) ご記入後、エクセルシートのままE-mailでの報告をお願いいたします。

FAXによる報告書は、受領致しかねます。

E-mailでの送付先は kmtl-et-pts-c@kmtl.co.jp です。

(お申し込み時と同じです)

(7) 都度、試験内容が変わりますので、以前のシートは使用しないようにお願いいたします。

【注意】

参加者同士の結果に関する情報交換、談合及び改ざん等が認められた場合は欠測値とし、参加費は返却致しません。また、試験片取扱い時の安全には十分ご注意ください。

5. 結果送付の締切期限 : **2020年 10月 30日 (金)**

(期限後の提出は、統計計算から除外致します)

以 上

EQF-009C-2 (改002)